

ASEAN非公式国防相会議で防衛供給網を検討 加盟各国の代表・代理のプロフィール

東南アジア諸国連合(ASEAN)は2月26日にマレーシアのペナンで、「安全と繁栄のためのASEANの団結(Asean Unity for Security and Prosperity)」をテーマに第19回ASEAN国防相会議(ADMM)リトリート(非公式会合)を開催した。協議では、東南アジア地域が直面する地政学的リスクの高まりに対応するには、集団的能力の強化が不可欠だとの認識の基に、加盟国が域外への外部調達の依存度を減らし、域内での防衛産業の供給網(サプライチェーン)構築を検討していくことで合意をみた。今後、ASEAN各国の防衛関連企業が注目されそうだ。

今回の非公式会合(ADMM Retreat)では、防衛産業の供給網構築の他に、防衛におけるAI活用とサイバーセキュリティ(2)(南シナ海の領有権問題を含む)海洋安全保障(3)捜索救難(SAR)を含む人道支援・災害救援(HADR)(4)防衛産業間の協力(5)非国家主体による安全保障上の脅威(6)バイオセキュリティ

その他、議長国マレーシアが提案した、これらの議題を含む主に下記の6項目について協議された。

(1)防衛におけるAI活用とサイバーセキュリティ(2)(南シナ海の領有権問題を含む)海洋安全保障(3)捜索救難(SAR)を含む人道支援・災害救援(HADR)(4)防衛産業間の協力(5)非国家主体による安全保障上の脅威(6)バイオセキュリティ

【人物データ・ファイル】

《マレーシア：2025年ADMM議長国》

■国防相 Minister of Defence

モハメド・カレド・ノルディン Mohamed Khaled Nordin



第19回ASEAN国防相会議非公式会合(ADMM Retreat 2025)の議長。会合では、「国境を越えて安全保障上の課題がますます複雑化する時代にあって、ASEANの連帯と強力な地域協力がこれまで以上に重要である」と強調し、そのための議題として(上述の)6項目を設定した。

*アンワル現政権の連立与党第3党「統一マレー国民組織(UMNO)」副総裁補。下院議員6期(ジョホール州コタティンギ選挙区)のベテラン政治家。アンワル首相が2023年12月に実施した内閣改造で高等教育相から現職(国防相)に横滑り。

▼1958年11月30日、(旧マラヤ連邦)ジョホール州ムアル生まれ(66歳)。マラヤ大学(UM)卒(法学士)。国営石油会社「ペトロナス」社員や大臣政務秘書官などを経て、1990年下院議員に初当選(以後、通算6期当選：一現職、99年副公共事業相、2004年(アブドゥラ内閣)起業家・協同組合開発相、08年高等教育相。2013年ジョホール州議会議員(以後、連続2期当選：一22年11月)、同5月同州首席相(一18年5月)。22年11月総選挙で下院議員に6選(一現職、同12月3日(アンワル内閣)高等教育相。23年12月12日国防相(一現職)。

《タイ》

■副首相兼国防相 Deputy Prime Minister & Minister of Defence

プームタム・ウェーチャヤチャイ Phumtham Wechayachai



タイ北部国境に隣接するミャンマー領カイン州ミャワディなどで大規模な中国系オンライン特殊詐欺の拠点が次々に摘発され、国際的な人身取引問題に発展している事態では、その対応に追われている。

*2024年9月に発足したペートンタン内閣で現職(副首

相兼国防相)。前副首相兼商務相。タクシン元首相派の旧「タイ愛国党(TRT)」創設当時から歴代タクシン派政党内で指導部の「参謀役」を担ってきた党人派。1976年の民主化闘争に参加した元学生運動指導者で、同年から78年まで旧「タイ共産党(CPT)」の党員だった。

▼1953年12月5日、バンコク生まれ(71歳)。チュラロンコン大学政治学部卒、同大学政治学修士。1997年「シン(Shin)・コーポレーション」社最高経営責任者(CEO)(一98年)。2001年内相政務秘書官、03年副首相顧問などを経て、05年3月(第2次タクシン政権)副運輸相(一06年9月)。07年から(TRT解散処分に伴い)5年間の公民権停止(一12年)。12年PT幹事長、のち副党首(一23年)。23年9月1日(セター内閣)副首相兼商務相。24年9月6日(ペートンタン内閣)副首相兼国防相(一現職)。

■国防相 Minister for Defence

ン・エンヘン〈黄永宏〉 Dr Ng Eng Hen



2005年から第二国防相を務め、第3次リー・シェンロン政権発足時の11年5月に現職(国防相)に就任。06年5月創設されたADMMの各国代表では「最古参」となる。閣僚歴22年に及ぶローレンス・ウォン現政権の重鎮的存在。

*シンガポール陸軍医務将校(大尉)を務めた経歴を持つガン専門医。5期目の国会議員(ビジャントア・パヨ集団選挙区〔GRC〕)。

▼1959年12月10日、(英連邦自治州)シンガポール生まれ(65歳)。人民行動党(PAP)。華人でキリスト教徒。シンガポール国立大学(NUS)医学部卒(MBBS)、同大学医学修士(外科)。(英)エディンバラ王立外科学会研究員、シンガポール陸軍医務将校(大尉)を経て、1990年シンガポール総合病院(SGH)顧問外科医。97年開業医(胸部外科専門)。2001年国会議員に初当選(以後、5回連続当選)。02年(ゴー・チョクトン政権)国務相(教育/人材開発)、03年人材開発相代行兼上級国務相(教育)。04年(第1次リー・シェンロン政権)人材開発相兼第二教育相。05年人材開発相兼第二国防相。08年教育相兼第二国防相。11年5月(第3次リー・シェンロン政権)国防相。20年7月10日総選挙で下院議員に5選。24年5月15日(ウォン内閣発足)国防相に留任(一現職)。

《ブルネイ》

■首相府相兼第二国防相

Minister at the Prime Minister's Office & Minister of Defence II

ハルビ・モハマド・ユソフ(退役少将) Maj.Gen.(Ret.) Halbi Mohd Yusof

ブルネイ政府では国防相ポストはボルキア国王(首相兼国防相兼財務経済相兼外相)が兼任しているため、第二国防相の同(ハルビ)氏がADMMなどの国際会議では同国代表の責務を果たす。元ブルネイ王国軍(RBAF)司令官(退役陸軍少将)。



▼1956年6月22日生まれ(68歳)。英国サンドハースト王立陸軍士官学校卒、英国王立国防大学(RCDS)修士(国際政治学)。1977年ブルネイ王国軍(RBAF)少尉に任官。RBAF司令官補佐官、ブルネイ陸軍(RBLF)第2大隊長、RBAF司令部作戦・企画本部1級参謀(作戦担当)、国防大臣官房戦略企画部長代行などを歴任。2001年2月陸軍(RBLF)司令官を経て、03年3月ブルネイ王国軍(RBAF)司令官に就任。09年12月RBAFを定年退役。10年5月副内相として入閣。15年10月文化・青年・スポーツ相。18年1月第二国防相。22年6月首相府相。23年2月27日首相府相兼第二国防相(一現職)。

《インドネシア》

■国防相 Minister of Defense

シャフリール・シャムスディン Sjafrie Sjamsoeddin



昨年(2024年)10月に発足したプラボウォ内閣で現職(国防相)に起用された。ユドヨノ政権で副国防相を務めたことがある。退役陸軍中將。

*スハルト元大統領の警護隊員を務め、国軍士官学校(AMN)の同期生で元大統領の娘婿(当時)だったプラボウォ現大統領とは旧知の間柄。

▼1952年10月30日、南スラウェシ州マカッサル生まれ(72歳)。1974年陸軍入隊後、各部門・部隊の要職を歴任。陸軍特殊部隊(Kopassus)参謀。1997年ジャカルタ軍管区(Kodam Jaya)司令官(一98年)。2010年1月(第2次ユドヨノ政権)副国防相(一14年)。24年10月21日(プラボウォ内閣)国防相(一現職)。

《フィリピン》

■国防相 Secretary of National Defense

ギルベルト・テオドロ Gilbeto Eduardo Gerardo Cojuangco Teodoro Jr.



マルコス大統領が2023年6月5日付で発令した人事で、現職(国防相)に任命された。アロヨ政権でも国防相を務めたことがある。

*フィリピン空軍(PAF)指揮幕僚学校とフィリピン国軍(AFP)指揮幕僚大学の指揮幕僚課程を修了し、予備役空軍大佐(PAF指揮幕僚学校客員教官)に任官。

*故コラソン・アキノ元大統領の甥に当たり、故ベニグノ・アキノ(3世)元大統領とは従兄弟の関係。

▼1964年6月14日、マニラ市生まれ(60歳)。人民改革党(PPP)。カトリック教徒。デラサール大学卒(商学・金融機関：首席)、フィリピン大学(UP)法学士(LL.B.)取得。89年司法試験を全国トップで合格。97年(米)ハーバード大学法学修士(LL.M.)。ニューヨーク州司法試験合格(同州弁護士会会員)。09年(ネグロス・オクシデンタル州)ウェスト・ネグロス大学博士(法学)。予備役空軍大佐。1985年タルラク州議会議員(一86年)。89年「EPメンドーサ(Mendoza)法律事務所」弁護士(一96年)。95年「スリコン(Suricon)リソース」社会長・CEO(一96年)。98年下院議員(NPC：タルラク1区)に初当選(以後、連続3期当選：一2007年6月)。2007年8月(アロヨ政権)国防相(一09年11月)。10年5月大統領選挙に立候補するが落選。15年8月から「サジタリウス(Sagittarius)鉱業」社取締役会長ほか数社の役員を兼任。23年6月5日(マルコス内閣)国防相(一現職)。

《ベトナム》

■国防次官 Deputy Minister of National Defence

グエン・タン・クオン大將 Gen. Nguyen Tan Cuong



ADMM Retreat 2025では、ファン・バン・ザン(Phan Van Giang)国防相の代理としてベトナム代表団を率いた。

*2021年6月、ベトナム人民軍(VPA：兵力推定48万2,000人)のトップ(総参謀長)に就任(国防次官と兼任)。

▼1966年2月12日、(紅河デルタ)ハナム省生まれ(59歳)。ベトナム共産党(CPV)中央委員、中央軍事委員会常任委員。1983年ベトナム人民軍(VPA)に入隊後、各部局・部隊の役職を歴任。2012年VPA少将に昇進。13年第4軍管区(北中部)副司令官兼参謀長。14年同司令官(中將)。18年VPA参謀次長。19年12月国防次官(兼任)。21年6月3日VPA総参謀長兼国防次官(上將)(一現職)、同10月20VPA大將に昇進(一現役)。

《カンボジア》

■副首相兼国防相 Deputy Prime Minister & Minister of National Defence

ティア・セイハ大將 Gen. Tea Seiha



2023年8月、(フン・セン前首相の長男である)フン・マネット氏を首相とした新内閣の発足時に現職(副首相兼国防相)に就任。ティア・パニユ(Tea Banh)前副首相兼国防相の息子。カンボジア王国軍大將。前シアムリアブ州知事。

▼1980年8月31日、プノンペン生まれ(44歳)。カンボジア人民党(CPP)中央委常任委員。(仏パリ)リセー・パッシー・サントノーレ卒(経営学)、(仏)サン・シール陸軍士官学校卒。2018年12月シアムリアブ州知事。23年8月22日(フン・マネット内閣)副首相兼国防相(一現職)。

《ラオス》

■国防相 Minister of National Defence

カムリエン・ウタカイソーン中將 Lt. Gen. Khamlieng Outhakaisone



2024年11月、副国防相から現職(国防相)に昇格した。(2016年から国防相、21年から副首相兼国防相を務めた)チャンサモン・チャンニャラート大將(Gen. Chansamone Chanyalath)が副首相(専任)に異動したことに伴う人事。ラオス人民軍(LPAF)総参謀長を兼任する現役中將。

▼副国防相就任以前には、LPAF参謀次長や中部・サイソムブーン県の知事を務めた。

《ミャンマー》

ミャンマー軍事政権(国家統治評議会〔SAC〕)の幹部はASEAN首脳会議(サミット)をはじめとする外交・安全保障関連のASEAN閣僚級会合には招待されておらず、今回のADMM Retreat2025でも、本来なら同国代表となるはずのマウン・マウン・エー副首相兼国防相(Gen Maung Maung Aye：前国軍陸海空統合参謀長)に代わって国防省の官僚団が出席した。

(アジア・リンケージ 勝田 悟)